

平成 31 年度（令和元年度）海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村夏実

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握した。
4. セーリング競技等における競技力向上に関するレース運営に協力した。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第 25 号を発刊した。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

- ① 海洋スポーツ活動のための指導者育成（主担当 中村／令和 2 年 3 月実施予定→中止）
自然体験活動指導者（NEAL リーダー）資格取得講習会の開催予定であったが、外部講師を招聘する必要があったため、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止とした。
- ② 小型船舶免許取得講習会の開催（主担当 中村・坂口）
学内教職員・学生を対象とし、希望者 5 名程度以上での実施を検討したが、希望者無しのため、開催しなかった。
- ③ 高須小学校「ヨット学習」への協力（主担当 中村）
実施日：令和元年 5 月 24 日、31 日、6 月 7 日、14 日、毎週金曜日 3・4 時限目。
高須小学校の総合学習「ヨット学習」に対し、体育大学競技スポーツ論・実習ⅡⅢの授業と合同で実施する形式で協力をした。論・実習Ⅲの受講学生が指導案を作成、論・実習Ⅱの学生が補助指導を担当することで、学生の実践力のトレーニングにも活用された。

2. 研究プロジェクト

- ① 生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響（主担当 中村・榮樂）
- ② 海上での SUP 運動と陸上でのウォーキング中の筋活動を調べるため、海上での筋電位収集方法を精査した。カヌースプリント競技におけるパワーの評価方法について（主担当 中村）
収集したデータのうち、「カヌースプリントの最大艇速とメディシンボールスローの投擲距離との関係」について本学紀要に投稿、査読中（令和 2 年 3 月現在）。
- ③ セーリング競技における選手用テキストの作成（主担当 榮樂）
継続的に作成してきた内容に、各技術におけるチェック項目、戦術に関する項目の追加を行いコンテンツの充実を図った。セーリング競技における競技力向上のためのミーティング、技術評価資料として活用されつつある。

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト

- ① 学長杯オープンヨットレースの開催（主担当 榮樂・坂口・中村）
実施日：令和元年 9 月 1 日（日）
ヨットレースに加え、スタンドアップパドルボードのファンレースを実施した。
- ② カノヤカップヨットレース大会協力（主担当 榮樂・坂口）
実施日：令和元年 8 月 31 日（土）
鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力およびレース終了後の練習会を開催した。
- ③ 公開講座の開催（中村・榮樂・坂口）
・公開講座 A：楽しいマリンスポーツ（主担当 榮樂・中村・坂口）
実施日：平成 31 年 4 月 14 日、21 日、28 日、令和元年 5 月 12 日（日）9:00～12:00

5月19日(日) 9:00~16:00

- ・公開講座B: 楽しいスキューバダイビング(初級者編)(主担当 中村・榮樂・坂口)

実施日: 令和元年5月8日、15日、22日、29日、6月5日、12日、19日
毎週水曜日 19:00~21:00 屋内実験プール

6月23日(日) 9:00~16:00 佐多田尻海岸でのスキューバダイビング

- ・公開講座C: 少年少女海洋スポーツキャンプ(主担当 榮樂・中村・坂口)

実施日: 令和元年7月23日、24日、25日(2泊3日、宿泊・大隅青少年自然の家)

- ④ 鹿児島県教員10年経験者研修(パワーアップ研修)(主担当 中村・榮樂・坂口)

実施日: 令和元年7月 本研修に替えて、教員免許更新講習会を開催した。10年経験者研修と教員免許更新講習会はそれぞれ隔年開催としており、当センターの計画では交互に実施することとしていた。令和元年度は、10年経験者研修の開催年であったが、教職免許更新の対象者が多かったことから、平成30年度に引き続き2年連続の開講要請があったため、当初予定のパワーアップ研修に替えて、免許更新講習の開催となった。

- ⑤ マリIFESTA in かのやへの協力(主担当 中村・坂口・榮樂)

実施予定日: 令和元年7月14日(日) → 荒天のため中止

- ⑥ 大隅青少年自然の家との事業協力

a. 海浜活動安全対策協議会への出席(中村)

b. 体験の風をおこそう実行委員会への出席(中村)

c. 海からのメッセージ・大隅青少年自然の家教育事業への協力(主担当 坂口・中村・榮樂)

実施日: 8月3日(土)~8月6日(火)、

錦江湾沿岸の漕破・踏破プログラムに安全管理者として参加(主担当 坂口)

8月7日(水): 海洋スポーツセンターにてマリンスポーツの体験活動

(主担当 坂口、中村、榮樂)

- ⑦ セーリング競技の競技力向上に関する協力

a. 学長杯ヨットレースに、強化練習の一環として鹿児島国体代表選手が参加した(榮樂・坂口・中村 9月1日(日))。

b. 全日本オプティミスト級セーリング選手権大会に運営協力した(榮樂・坂口 11/23、24)。

c. 鹿児島国体に向けたセーリング競技の競技力向上の目的で技術指導を実施した(榮樂・10月12日(土)、13日(日)、14日(月))。

4. その他

- ① 重点プロジェクト事業(その他の戦略的事業経費): 海洋スポーツによる「地域発イノベーションの創出」および地域連携の充実

他地域にはない充実した意義のあるマリンスポーツ活動の充実を図るために以下のことを実施した。

a. カヌー技術指導マニュアル(初心者指導編)(主担当 中村)

b. シーカヤック等によるイベントおよびプログラム検討のための海岸線調査(主担当 中村・坂口)

- ② 海洋スポーツセンター協力者会議の開催(主担当 中村・榮樂)

実施日: 令和元年12月2日(月)

テーマ: 「海洋立国日本における海洋スポーツの意義・役割」

協力者演題: 「現代社会におけるマリンスポーツの重要性」

講演者: 城田 守 氏(静岡県立三ヶ日青年の家 所長)

- ③ 競技スポーツにおける強化合宿への協力

合宿等は行われなかったが、セーリング競技に対し以下の協力を行った

a. 学長杯ヨットレースに、強化練習の一環として鹿児島国体代表選手が参加した(主担当 榮樂・坂口)。実施日: 令和元年9月1日(日)。

b. 全日本オプティミスト級セーリング選手権大会に運営協力した(主担当 榮樂・坂口)。実施日: 令和元年11月23日(土)、24日(日)

c. 鹿児島国体に向けたセーリング競技の競技力向上の目的で技術指導を実施した(主担

当 榮樂)。実施日：令和元年10月12日（土）、13日（日）、14日（月）

④ 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

- a. 鹿児島南高等学校体育科2年次野外スポーツ実習「海洋スポーツ」（主担当 中村）
実施日：令和元年9月19日（木）、20日（金）

⑤ その他の施設利用

- a. あいら子供の家「海洋スポーツ体験」
指導者：柳敏晴 氏（神戸常盤大学教育イノベーション機構長）
センター対応教員：榮樂
実施日：令和元年8月10日（土）

Ⅲ. 決算報告

1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	36 千円	学長杯 学生等アルバイト
物件費	45 千円	トロフィー購入
その他	千円	
計	81 千円	

4. その他

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	20 千円	協力者会議外部協力者謝金
物件費	1,300 千円	センター管理運営（印刷製本費含）
その他	1,101 千円	協力者会議等旅費・修理・リース・ボンベレンタル等
計	2,421 千円	

Ⅳ. その他

1. 発刊物

海洋スポーツ研究第25号を発刊した。

2. 開催会議状況

協力者会議を令和年12月2日に開催した（Ⅱ. 事業報告4その他—①記載）。

3. 広報活動

face book を使った授業・事業実施報告を推進した。

4. センター利用促進策の成果

令和元年度の利用者総数（のべ人数）は、5,366名。平成29年度4,860名、平成30年度5,452名であり、概ね5,000名を超える利用者数が維持されたものと思われる。

5. その他
特になし